

三三一一番

玉たまの緒をの 現うつし心こころや 八十やそ梶か掛かけ 漕こぎ出でむ舟ふねに
後おくれて居をらむ

三三一二番

八十やそ梶か掛かけ 島しま隠かくりなば 我わ妹ぎ子もが 留とまれと振ふ
らむ 袖そで見みえじかも

三三一一三番

十月かみなづき しぐれの雨あめに 濡ぬれつつか 君きみが行ゆくら
む 宿やどか借かるらむ

三三一一四番

十月かみなづき 雨あま間まも置おかず 降ふりにせば いづれの里さと
の 宿やどか借からまし